

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3941832号  
(P3941832)

(45) 発行日 平成19年7月4日(2007.7.4)

(24) 登録日 平成19年4月13日(2007.4.13)

(51) Int. Cl.		F I	
<b>G09G</b>	<b>3/36</b>	<b>(2006.01)</b>	G09G 3/36
<b>G09G</b>	<b>3/20</b>	<b>(2006.01)</b>	G09G 3/20 612F
<b>G02F</b>	<b>1/133</b>	<b>(2006.01)</b>	G09G 3/20 623F
			G02F 1/133 550

請求項の数 17 (全 23 頁)

(21) 出願番号	特願2006-196418 (P2006-196418)	(73) 特許権者	000005108
(22) 出願日	平成18年7月19日(2006.7.19)		株式会社日立製作所
(62) 分割の表示	特願2000-48897 (P2000-48897) の分割	(74) 代理人	100100310 弁理士 井上 学
原出願日	平成5年2月26日(1993.2.26)	(72) 発明者	笠井 成彦
(65) 公開番号	特開2006-293403 (P2006-293403A)		神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地
(43) 公開日	平成18年10月26日(2006.10.26)	(72) 発明者	真野 宏之
審査請求日	平成18年7月19日(2006.7.19)		神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地
(31) 優先権主張番号	特願平4-39203		株式会社日立製作所 マイクロエレクトロ ニクス機器開発研究所内
(32) 優先日	平成4年2月26日(1992.2.26)		
(33) 優先権主張国	日本国(JP)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 多階調表示装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

マトリックス状に配列された赤(R)、緑(G)、青(B)の画素で一つのドットを形成する表示パネルと、

2<sup>N</sup>個の階調に対応する2<sup>N</sup>個の異なるレベルの印加電圧を生成する電圧生成部と、

夫々の画素に対して、前記階調を表すNビットデータを入力し、前記電圧生成部から供給される前記2<sup>N</sup>レベルの印加電圧から該入力した夫々のNビットデータに対応する一つの印加電圧を選択し、前記選択した印加電圧を前記表示パネルに出力するデータドライバと、

前記Nビットデータを表示する前記表示パネル上の前記画素のラインに選択電圧を出力する走査ドライバとを有し、

各レベルの印加電圧の関係は、前記2<sup>N</sup>個の異なるレベルの印加電圧のうちの最低レベルの印加電圧から最高レベルの印加電圧に向かって次第にそのレベルが高くなる関係にあり、

各レベルの印加電圧の範囲は、隣接する1レベル小さい印加電圧よりも大きく、隣接する1レベル大きい印加電圧よりも小さく、

前記電圧生成部は、前記2<sup>N</sup>個の異なるレベルの印加電圧のうちの前記最高レベルの印加電圧に対応する階調と前記最低レベルの印加電圧に対応する階調の中間の隣接する2つの階調に対応する中間レベルの隣接する2つの印加電圧間の差分が前記2<sup>N</sup>個の異なるレベルの印加電圧のうちの前記最高レベルの印加電圧と前記最高レベルの印加電圧に隣接す

10

20

る 1 レベル小さい印加電圧との間の差分及び前記最低レベルの印加電圧と前記最低レベルの印加電圧に隣接する 1 レベル大きい印加電圧との間の差分よりも小さく、かつ、前記  $2^N$  個の階調のうちの隣接する各階調間の色差が均等となるように、前記  $2^N$  個の異なるレベルの印加電圧を生成することを特徴とする多階調表示装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の多階調表示装置において、

前記最低レベルの印加電圧と前記最低レベルの印加電圧に隣接する 1 レベル大きい印加電圧との間の差分が前記最高レベルの印加電圧と前記最高レベルの印加電圧に隣接する 1 レベル小さい印加電圧との間の差分よりも大きいことを特徴とする多階調表示装置。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載の多階調表示装置において、

各隣接する 2 つの印加電圧間の差分は、前記最高レベルから前記中間レベルへ向かって次第に小さくなり、かつ、前記最低レベルから前記中間レベルへ向かって次第に小さくなることを特徴とする多階調表示装置。

【請求項 4】

請求項 2 又は 3 に記載の多階調表示装置において

前記電圧生成部で生成された前記  $2^N$  個の異なるレベルの印加電圧は、縦軸が輝度の対数、横軸が階調のグラフにプロットすると、前記 1 ドット分の前記  $N$  ビットデータによって表される中間階調の輝度が、前記 1 ドット分の前記  $N$  ビットデータによって表される最大輝度と前記 1 ドット分の前記  $N$  ビットデータによって表される最小輝度とを結ぶ直線上の値より夫々の階調において大きな値をとることを特徴とする多階調表示装置。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の多階調表示装置において、

前記電圧生成部で生成された前記  $2^N$  個の異なるレベルの印加電圧は、前記グラフにプロットすると、前記中間階調の輝度が、前記直線を基準として凸状の曲線上の値をとることを特徴とする多階調表示装置。

【請求項 6】

請求項 1 から 5 の何れかに記載の多階調表示装置において、

前記電圧生成部は、電圧を任意に分圧して前記  $2^N$  個の異なるレベルの印加電圧を出力する複数の抵抗及びオペアンプを有することを特徴とする多階調表示装置。

【請求項 7】

請求項 1 から 6 の何れかに記載の多階調表示装置において、

前記データドライバーは、入力した前記  $N$  ビットデータをラインごとにラッチするラッチと、

前記電圧生成部から供給される前記  $2^N$  個の異なるレベルの印加電圧から、ラッチされた前記  $N$  ビットデータの夫々に対応する一つの印加電圧を選択する選択部とを有することを特徴とする多階調表示装置。

【請求項 8】

請求項 1 から 7 の何れかに記載の多階調表示装置において、

前記表示パネルは、前記画素が赤 (R)、緑 (G)、青 (B) の順で行方向に配列されていることを特徴とする多階調表示装置。

【請求項 9】

請求項 1 から 8 の何れかに記載の多階調表示装置において、さらに、

前記表示パネルの前記画素の配列に応じて、入力した  $N$  ビットデータの順序を並べ替え、前記データドライバーへ出力する駆動信号生成部を有することを特徴とする多階調表示装置。

【請求項 10】

請求項 1 から 9 の何れかに記載の多階調表示装置において、

前記  $N$  は、3 以上であることを特徴とする多階調表示装置。

【請求項 11】

10

20

30

40

50

マトリックス状に配列された赤 (R)、緑 (G)、青 (B) の画素で一つのドットを形成する表示パネルと、

$2^N$  個の階調に対応する  $2^N$  個の異なるレベルの印加電圧を生成する電圧生成部と、夫々の画素に対して、前記階調を表す N ビットデータを入力し、前記電圧生成部から供給される前記  $2^N$  レベルの印加電圧から該入力した夫々の N ビットデータに対応する一つの印加電圧を選択し、前記選択した印加電圧を前記表示パネルに出力するデータドライバと、

前記 N ビットデータを表示する前記表示パネル上の前記画素のラインに選択電圧を出力する走査ドライバとを有し、

各レベルの印加電圧の関係は、前記  $2^N$  個の異なるレベルの印加電圧のうちの最低レベルの印加電圧から最高レベルの印加電圧に向かって次第にそのレベルが高くなる関係にあり、

各レベルの印加電圧の範囲は、隣接する 1 レベル小さい印加電圧よりも大きく、隣接する 1 レベル大きい印加電圧よりも小さく、

前記電圧生成部は、前記 1 ドット分の前記 N ビットデータによって表される中間階調の輝度が、縦軸が輝度の対数、横軸が階調のグラフにプロットすると、前記 1 ドット分の前記 N ビットデータによって表される最大輝度と前記 1 ドット分の前記 N ビットデータによって表される最小輝度とを結ぶ直線上の値より夫々の階調において大きな値をとり、前記  $2^N$  個の異なるレベルの印加電圧のうちの前記最高レベルの印加電圧に対応する階調と前記最低レベルの印加電圧に対応する階調の中間の隣接する 2 つの階調に対応する中間レベルの隣接する 2 つの印加電圧間の差分が前記  $2^N$  個の異なるレベルの印加電圧のうちの前記最高レベルの印加電圧と前記最高レベルの印加電圧に隣接する 1 レベル小さい印加電圧との間の差分及び前記最低レベルの印加電圧と前記最低レベルの印加電圧に隣接する 1 レベル大きい印加電圧との間の差分よりも小さく、前記最低レベルの印加電圧と前記最低レベルの印加電圧に隣接する 1 レベル大きい印加電圧との間の差分が前記最高レベルの印加電圧と前記最高レベルの印加電圧に隣接する 1 レベル小さい印加電圧との間の差分よりも大きく、各隣接する 2 つの印加電圧間の差分が前記最高レベルから前記中間レベルへ向かって次第に小さくなりかつ前記最低レベルから前記中間レベルへ向かって次第に小さくなるように、前記  $2^N$  個の異なるレベルの印加電圧を生成することを特徴とする多階調表示装置。

#### 【請求項 1 2】

請求項 1 1 に記載の多階調表示装置において、

前記電圧生成部で生成された前記  $2^N$  個の異なるレベルの印加電圧は、前記グラフにプロットすると、前記中間階調の輝度が、前記直線を基準として凸状の曲線上の値をとることを特徴とする多階調表示装置。

#### 【請求項 1 3】

請求項 1 1 又は 1 2 に記載の多階調表示装置において、

前記電圧生成部は、電圧を任意に分圧して前記  $2^N$  個の異なるレベルの印加電圧を出力する複数の抵抗及びオペアンプを有することを特徴とする多階調表示装置。

#### 【請求項 1 4】

請求項 1 1 から 1 3 の何れかに記載の多階調表示装置において、

前記データドライバは、入力した前記 N ビットデータをラインごとにラッチするラッチと、

前記電圧生成部から供給される前記  $2^N$  個の異なるレベルの印加電圧から、ラッチされた前記 N ビットデータの夫々に対応する一つの印加電圧を選択する選択部とを有することを特徴とする多階調表示装置。

#### 【請求項 1 5】

請求項 1 1 から 1 4 の何れかに記載の多階調表示装置において、

前記表示パネルは、前記画素が赤 (R)、緑 (G)、青 (B) の順で行方向に配列されていることを特徴とする多階調表示装置。

10

20

30

40

50

## 【請求項 16】

請求項 11 から 15 の何れかに記載の多階調表示装置において、さらに、前記表示パネルの前記画素の配列に応じて、入力したNビットデータの順序を並べ替え、前記データドライバーへ出力する駆動信号生成部を有することを特徴とする多階調表示装置。

## 【請求項 17】

請求項 11 から 16 の何れかに記載の多階調表示装置において、前記Nは、3以上であることを特徴とする多階調表示装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

10

## 【0001】

本発明は、ドットマトリクスタイプの表示方法、及び表示装置に係り、多色/多階調表示を行う駆動回路に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

従来の液晶表示装置は、入力されるインターフェース信号を液晶表示装置駆動用の駆動信号に変換し、前記駆動信号を液晶駆動手段に与え、液晶駆動手段では、与えられた駆動信号のうち8レベルの表示データを画面のライン分ずつ取り込み、それを表示データに従った8レベルの液晶駆動電源として液晶パネルに出力することにより、画像の表示を行っている。この方式では1991年電子情報通信学会春季全国大会講演論文C-480に記載のように上記8レベルの電圧を均等に分割することにより8階調の表示を行っていた。しかし、この方式では、電圧のレベルを均等に分割しており、階調のバランスが人間の目に均等に見えるか否かに関しては考慮していなかった。

20

## 【0003】

上記従来技術を図2～図8を用いて詳しく説明する。

## 【0004】

図2は従来の液晶表示装置を示すブロック図であり、1はRed(レッド)入力表示データ、2はGreen(グリーン)入力表示データ、3はBlue(ブルー)入力表示データ、4はクロックであり、入力表示データ1～3は、各々一画素分のデータがクロック4に同期してシリアルに送られ、Red入力表示データ1、Green入力表示データ2、Blue入力表示データ3の各々は、一画素分を3ビットで構成し8階調を表すデータである。ここで、画素とはRed、Green、Blue各々の一点灯素子のことであり、カラー表示装置の場合、3画素でドットを構成している。詳細は後で説明する。5は水平クロック、6は先頭信号であり、水平クロック5の一周期(一水平期間)で一水平分のデータが送られてくる。また、先頭信号6は表示データの先頭ラインを示すとともに、その一周期で一画面分の表示データが送られてくる。7は液晶駆動信号生成部、8は液晶表示データ、9はデータクロック、10は液晶水平クロック、11は液晶先頭信号であり、液晶信号生成部7は、入力表示データ1～3を、液晶表示用にR画素、G画素、B画素の順に並び替え、8画素分平行で、一画素分のデータが8階調を表す3ビットの液晶表示データ8を生成する。また、クロック4、水平クロック5、先頭信号6を入力し、それぞれデータクロック9、液晶水平クロック10、液晶先頭信号11を生成する。21は8レベル均等液晶印加電圧生成部、22は8レベル均等液晶印加電圧であり、8レベル均等液晶印加電圧生成部21は、均等に分割された電圧を生成し、8レベル均等の液晶印加電圧22として出力する。14は日立製HD66310に代表される8レベルデータドライバ、15は液晶水平データであり、8レベルデータドライバ14は、液晶表示データ8をデータクロック9で一水平分取り込んだ後、液晶水平クロック10に同期してその取り込んだデータを出力段に取り込み、そのデータに従い、8レベル液晶印加電圧21から一レベルを選択し、液晶水平データ15として出力する。したがって、8レベルデータドライバ14は、データクロック9で取り込んでいるラインの液晶表示データ8のライン前の液晶水平データ15として出力することになる。液晶表示データ8は、8レベルデータ

30

40

50

ドライバ14の入力仕様に合わせたデータである。日立製HD66310の入力は一画素分のデータが3ビットで構成され、4画素分がパラレルとなっているが、ここでは8レベルデータドライバ14の入力は、一画素分のデータが3ビットで構成され、8画素分がパラレルとなっているものとして以下説明する。16は走査ドライバ、17、18、19は走査ドライバ16の出力で、それぞれ一ライン目走査線、二ライン目走査線、nライン目走査線であり、8レベルデータドライバ14の出力する液晶水平データ15を表示するラインの走査線に選択電圧を出力する。20は液晶パネルであり、水平mドット、垂直nラインの解像度であり、液晶水平データ15の電圧に従い、8階調の表示を行う。

**【0005】**

図3は、図2において液晶駆動信号生成部7が、入力表示データ1~3から液晶表示データ8を生成する動作に関連した各信号のタイミング図である。(a)はRed入力表示データ1、(b)はGreen入力表示データ2、(c)はBlue入力表示データ3であり、各々一画素分ずつシリアルに送られてくる信号で、一画素分は8階調を表す3ビットデータである。(d)~(f)は(a)~(c)の一画素分ずつシリアルに送られてくる入力表示データ1~3を、8画素分のパラレルに変換した信号、(g)は液晶表示データ8であり、液晶パネル20の画素配列に合わせて、Red、Green、Blueのデータを並び替えた8画素分のパラレルなデータである。

10

**【0006】**

図4は、液晶パネル20の画素構成である。23はRed画素、24はGreen画素、25はBlue画素であり、この3画素でドット26が構成される。液晶表示データ8はこの画素配列に合わせて生成されることになる。

20

**【0007】**

図5は、8レベル均等液晶印加電圧生成部21の構成である。27は液晶駆動電源、28~36は液晶駆動電源を8レベルの電圧に分圧するための抵抗、37~44はオペアンプであり、29~35の抵抗値をすべて等しくすることにより、8レベルが均等な液晶印加電圧22を生成する。そのときの電圧値を表1に示す。

**【0008】**

【表 1】

表 1

階調	電圧値 [V]
1	6.50
2	5.80
3	5.10
4	4.40
5	3.70
6	3.00
7	2.30
8	1.60

10

20

## 【0009】

図6は、8レベルデータドライバ14の詳細を示すブロック図である。45はデータシフト部、46はシフトデータであり、データシフト部45はデータクロック9に従い、一ライン分のデータを一水平期間中に取り込み、シフトデータ42として出力する。47は1ラインラッチ手段、48は表示データであり、1ラインラッチ手段47はシフトデータ46を一ライン分ラッチし、液晶水平クロック10に同期して表示データ48として出力する。49は8レベル電圧選択部であり、表示データ48に従い、8レベル液晶印加電圧22のうちの一レベルを選択し、液晶水平データ15(X-D1~X-D3m)として出力する。X-D1~X-D3mは、液晶パネル20の解像度が水平mドットで、一ドットが3画素で構成されることから、液晶水平データの水平線は(3×m)本となることを示している。

30

## 【0010】

図7は8レベル電圧選択部の構成を示す図である。50は3to8デコーダ、51~58はデコーダ出力線、59~66はスイッチング素子、67は液晶水平データ線であり液晶水平データ(X-D1~X-D3m)のうち的一本である。3to8デコーダ50は3ビットの表示データ48に従って、デコーダ出力線51~58のうち的一本を1'とし、59~66のうち一つをオン'とし、8レベル均等液晶印加電圧22のうちの一レベルを選択し液晶水平データ線67に出力する。

40

## 【0011】

図8は、液晶の印加電圧と表示輝度の関係の一例を示す図である。8レベルが均等に分割された液晶印加電圧V1~V8による表示輝度を示している。

## 【0012】

本発明の動作を説明するために、図2~8を再び参照する。

## 【0013】

図2において、液晶駆動信号生成部7は、各々一画素分ずつシリアルで送られ、一画素分は3ビットで8階調を表すRed入力表示データ1、Green入力表示データ2、B

50

Blue入力表示データ3、クロック4から、液晶表示用のデータクロック9に同期した8画素分パラレルで、一画素分は3ビットの液晶表示データ8を生成し、水平クロック5、先頭信号6から、液晶駆動用信号であるデータクロック9、液晶水平クロック10、液晶先頭信号11を生成する。液晶表示データ8の生成に関して、詳しくは後で説明する。

【0014】

8レベル均等液晶印加電圧生成部21は、電圧の差が均等な8レベルの液晶印加電圧22を生成する。詳しくは後で説明する。

【0015】

8レベルデータドライバ14は、液晶表示データ8、データクロック9、液晶水平データ10、8レベル均等液晶印加電圧13から、液晶水平データ15を生成する。詳しくは後で説明する。走査ドライバ16は、液晶先頭信号9の1'を液晶水平クロック10で取り込み、一ライン目走査線17に選択電圧を出力し、その後液晶水平クロック10でライン目走査線18、... nライン目走査線19と順次シフトし、一画面の走査を行う。走査ドライバ16から選択電圧が出力された液晶パネル20のライン上に、8レベルデータドライバ14から出力される液晶水平データ15の電圧に従ったが表示が行われる。

【0016】

液晶駆動信号生成部7の表示データの生成に関する動作の詳細を図2~4を用いて説明する。

【0017】

図2において、液晶駆動信号生成部7は、8レベルデータドライバ14の入力データが8ドットパラレル入力という仕様のため、図3のようなデータの変換を行う。(a)~(c)の入力表示データ1~3をシリアル-パラレル変換し、(d)~(f)の各色8画素分パラレルなデータとする。これを図4のような液晶パネル20の画素配置に合わせて、Red、Green、Blueの順に並び替えて8画素分パラレルな液晶表示データ8として出力する。

【0018】

8レベル均等液晶印加電圧生成部12の動作の詳細を図5及び表1を用いて説明する。

【0019】

図5において、抵抗28~36は液晶駆動電源27を分圧し、オペアンプ37~44を通して出力される。抵抗29~35の抵抗値はすべて等しいため、V1~V8は電圧差が均等な8レベル均等液晶印加電圧22として、表1のように出力される。

【0020】

8レベルデータドライバ14の動作の詳細を図6、7を用いて説明する。

【0021】

図6において、データシフト部45は、液晶表示データ8をデータクロック9に従い、一水平期間中に一ライン分取り込み、シフトデータ46として出力する。1ラインラッチ手段47はシフトデータ46を水平クロック10に従って一ライン分ラッチし、液晶水平クロック10に同期して表示データ44として出力する。8レベル電圧選択部49は、表示データ48に従い、8レベル均等液晶印加電圧22のうちの一レベルを選択し、液晶水平データ15(X-D1~X-D3m)として出力する。

【0022】

8レベル電圧選択部49の動作の詳細を図7を用いて説明する。

【0023】

図7において、3to8デコーダ50は3ビットの表示データ48に従って、デコーダ出力線51~58のうち的一本を1'とすることにより、スイッチング素子59~66のうちの一つをオン'とし、オン'となったスイッチング素子を通して、8レベル均等液晶印加電圧22のうちの一レベルを液晶水平データ線67に出力する。

【0024】

カラー表示の動作を図4、8を用いて説明する。

【0025】

10

20

30

40

50

8レベル均等液晶印加電圧22で表示される8階調の輝度特性の一例は図8のようになる。図2において、Red画素23、Green画素24、Blue画素26の各々が図8のような輝度特性を持つため、この3画素で構成されるドット27は512通りの組合せにより512色での表示が行われる。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0026】

上記従来例では、8レベル液晶印加電圧を均等に分割しているため、人間の目に見える階調のバランスについては考慮していなかった。

【0027】

本発明の目的は、表示の光学的特性に人間の視覚特性を加味して考慮し、階調のバランスが人間の目に均等に見える多階調表示装置を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0028】

上記目的は、階調表示の色差を均等にしよう、8レベル液晶印加電圧を生成する手段を設けることにより実現できる。

【0029】

8レベル液晶印加電圧生成手段で、 $2^N$ レベルの印加電圧のうちの中間レベルの隣接印加電圧間の差分が $2^N$ レベルの印加電圧のうちの高レベルの隣接印加電圧間の差分及び低レベルの隣接印加電圧間の差分よりも小さく(図14)、かつ、 $2^N$ レベルの階調のうち

【0030】

また、8レベル液晶印加電圧生成手段で、1ドット分のNビットデータによって表される中間階調の輝度が、縦軸が輝度の対数、横軸が階調のグラフにプロットすると、1ドット分のNビットデータによって表される最大輝度と1ドット分のNビットデータによって表される最小輝度とを結ぶ直線上の値より夫々の階調において大きな値をとり(図15)、 $2^N$ レベルの印加電圧のうちの中間レベルの隣接印加電圧間の差分が $2^N$ レベルの印加電圧のうちの高レベルの隣接印加電圧間の差分及び低レベルの隣接印加電圧間の差分よりも小さく(図14)、低レベルの隣接印加電圧間の差分が高レベルの隣接印加電圧間の差分よりも大きく(図14)、隣接印加電圧間の差分が高レベルから中間レベルへ向かって次第に小さくなりかつ低レベルから中間レベルへ向かって次第に小さくなるように(図14)、 $2^N$ レベルの印加電圧を生成する。

【0031】

上記8レベル液晶印加電圧生成手段は、8階調表示を行った場合、隣の階調との色差が均等となるため、人間の目にバランスが均等に見える階調表示を実現できる。

【発明の効果】

【0032】

本発明によれば、階調表示の隣合う階調間の色差を均等にすることにより、液晶材料、カラーフィルタ等の液晶パネルの特性にかかわらず、人間の目に階調間の差が均等に見える多階調表示を実現することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0033】

以下、本発明の実施例1及び2を説明する。

【実施例1】

【0034】

以下、本発明の一実施例を図1、図9~14及び表2を用いて説明する。図1は本発明を適用した多階調表示装置の一実施例のブロック図であり、1はRed入力表示データ、2はGreen入力表示データ、3はBlue入力表示データ、4はクロックであり、本実施例では、入力表示データ1~3は各々クロック4に同期し、一画素分ずつのデータがシリアルに送られ、一画素分のデータは3ビットで8階調を表すデータとする。7は液晶

10

20

30

40

50

駆動信号生成部、8は液晶表示データ、9はデータクロック、10は液晶水平クロック、11は液晶先頭信号であり、液晶駆動信号生成部7は従来と同様に、液晶表示データ8、データクロック9、液晶水平クロック10、液晶先頭信号11を生成する。12は8レベル液晶印加電圧生成部、13は8レベル液晶印加電圧であり、8レベル液晶印加電圧生成部12は、人間の視覚特性を考慮した8レベル液晶印加電圧13を生成する。14は8レベルデータドライバ、15は液晶水平データであり、8レベルデータドライバ14は従来と同様に液晶水平データ15を生成する。16は走査ドライバ、17、18、19は走査ドライバ16の出力で、それぞれ一ライン目走査線、二ライン目走査線、nライン目走査線であり、走査ドライバ16は、従来と同様に8レベルデータドライバ14の出力する液晶水平データ15を表示するラインの走査線に選択電圧を出力する。20は液晶パネルである。

10

## 【0035】

図9は8レベル液晶印加電圧生成部12の内部構成の一実施例である。27は液晶駆動電源、68～83は抵抗、84～91はオペアンプであり、抵抗68と69、70と71、72と73、74と75、76と77、78と79、80と81、82と83はそれぞれ液晶駆動電源27を分圧して、オペアンプ84～91を通して8レベル液晶印加電圧13のV1～V8として出力する。本実施例では $V1 > V2 > \dots > V7 > V8$ とし、V1によって階調1（黒表示）、V8によって階調8（白表示）、それ以外のV2～V7で階調2～7（中間調）を得ることとする。

## 【0036】

図10は8レベル液晶印加電圧の設定の一実施例である。V1～V8の設定を均等にはしていない。

20

## 【0037】

図11は図10のように8レベル液晶印加電圧13を均等に設定しない場合に本実施例で用いた液晶パネルで得られる8階調輝度の特性である。

## 【0038】

図12はCIE LUV均等色空間であり、この色空間内の座標間の距離が人間の目に見える色の差を表す。92は8レベル液晶印加電圧13のうちのV1による黒表示の座標、93はV8による白表示の座標、94は8レベル液晶印加電圧をV1からV8まで変化させたときの座標の軌跡である。

30

## 【0039】

図13は、本実施例で用いた液晶パネルの8階調表示における各階調間の色差を示す図であり、99は8レベル均等液晶印加電圧22を表1の設定にした場合に得られる8階調の各階調間の色差、100は8階調間の輝度を図11のように均等に設定して得られる各階調間の色差、101は8レベル液晶印加電圧13を表2の設定にした場合に得られる8階調の各階調間の色差をそれぞれ示している。

## 【0040】

図14は、8レベル液晶印加電圧13を表2の設定にした場合に得られる表示輝度を示す図である。

## 【0041】

図15は、本実施例の8階調の表示輝度特性を示す図である。

40

## 【0042】

以下、本実施例の動作を説明するために、図1、9～15及び表2を再び用いる。

## 【0043】

図1において、液晶駆動信号生成部7は従来と同様に、Red入力表示データ1、Green入力表示データ2、Blue入力表示データ3、クロック4から、液晶表示用のデータクロック9に同期した液晶表示データ8を生成し、水平クロック5、先頭信号6から、液晶駆動用信号であるデータクロック9、液晶水平クロック10、液晶先頭信号11を生成する。

## 【0044】

50

8レベル液晶印加電圧生成部12は、電圧の差が任意に設定された8レベルの液晶印加電圧13を生成する。詳しくは後で説明する。

【0045】

8レベルデータドライバ14は従来と同様に、液晶表示データ8、データクロック9、液晶水平データ10、8レベル均等液晶印加電圧13から、液晶水平データ15を生成する。走査ドライバ16は、液晶先頭信号9の1'を液晶水平クロック10で取り込み、一ライン目走査線17に選択電圧を出力し、その後液晶水平クロック10で二ライン目走査線18、...nライン目走査線19と順次シフトし、一画面の走査を行う。走査ドライバ16から選択電圧が出力された液晶パネル20のライン上に、8レベルデータドライバ14から出力される液晶水平データ15の電圧に従った表示が行われる。カラー表示の動作は従来と同様で、8階調の組合せにより、512色での表示が行われる。

10

【0046】

人間の視覚特性に合わせた8レベル液晶印加電圧13の設定方法の詳細を図9～図15を用いて説明する。

【0047】

図9において、液晶駆動用電源46は、抵抗64と65、66と67、68と69、70と71、72と73、74と75、76と77、78と79によって任意に分圧され、オペアンプ80～88を通して8レベル液晶印加電圧13のV1～V8となる。

【0048】

V1～V8を不均等に設定した場合の表示輝度が図10に示され、8階調の表示輝度特性は図11のようになる。この場合は表示輝度の対数が均等になるような設定となる。

20

【0049】

図12は国際照明委員会CIEによって定められたCIELUV均等色空間であり、この空間内座標間の距離が人間の目に見える色の差を表す。8レベル液晶印加電圧13のうちのV1による黒表示の座標92と、V8による白表示の座標93に示されている添字\*は、光学的測定で得られる座標(Y, u', v')に心理的要素が加味されていることを示し、8レベル液晶印加電圧をV1からV8まで変化させたときの座標の軌跡が94である。また、この座標は、液晶パネルの特性により異なるため、電圧設定後に光学測定を行うことにより得られる座標である。本実施例での光学測定方法を以下に示す。

【0050】

本実施例で用いた光学測定器は、PHOTO RESEARCH社製1980Bである。このPHOTO RESEARCH社製1980Bの測定モードの中のSPECTRARRADIOMETER MODEによって液晶パネル表面の光を測定することによって、輝度を表す(Y)と色を表す座標(u', v')を得ることができる。測定範囲は、液晶パネル中央部直径約5mmの円内である。任意の電圧設定に対して光学的測定によって得られる座標(Y, u', v')を式1に従い計算することにより、CIELUV均等色空間内の座標に置き換えることができる。

30

【0051】

【数 1】

数 1

$$L^* = 116 \left( \frac{Y}{Y_0} \right)^{1/3} - 16, \quad \left( \frac{Y}{Y_0} > 0.008856 \right),$$

$$u^* = 13L^* (u' - u_0'), \quad v^* = 13L^* (v' - v_0').$$

10

【0052】

このCIE LUV均等色空間内の座標間の距離が色差と呼ばれる人間の目に見える色の差となる。図12の8レベル液晶印加電圧V1による黒表示と、V8による白表示の色差の計算方法は式2のようになる。

【0053】

【数 2】

20

数 2

$$\text{色差: } dE^* = \sqrt{(L8^* - L1^*)^2 + (u8^* - u1^*)^2 + (v8^* - v1^*)^2}.$$

【0054】

ただし、この距離は直線距離であり、図12の軌跡94の距離とは異なる。したがって、V1からV8の間で少しずつ印加電圧を変化させ、それぞれの電圧間での色差を計算し累計することにより、隣接印加電圧間の距離及び軌跡94の距離は計算できる。本発明では、8階調の階調間の色差を均等にするため、この軌跡94を(階調数 - 1)分割、つまり8階調表示の場合は7分割し、各階調間の色差が、その分割により得られた値にほぼ一致するような印加電圧の組を求める。電圧設定後の各階調表示について光学的測定を行い、各階調間の色差を式2を用いて計算する。この場合、得られた色差が要求された色差と異なる場合は、再び電圧設定、光学的測定、色差計算を行い、要求される色差が得られるまでこれを繰り返す。こうして得られた結果を表2に示す。

30

【0055】

【表 2】

表 2

階調	電圧値 [V]	色差
1	6.50	
2	4.96	15.2
3	4.29	15.4
4	3.83	15.4
5	3.43	15.4
6	3.00	15.4
7	2.51	15.3
8	1.77	15.3

10

20

## 【0056】

表中の色差の値は上の欄の階調との色差、例えば階調3の欄の色差の値は階調2との色差を表している。表2に示すように、各階調間の色差を均等になるように8レベル液晶印加電圧13を設定することにより、液晶材料、カラーフィルタといった液晶パネルの特性にかかわらず、人間の目に階調間の差が均等に見える8階調表示を実現できる。

## 【0057】

図13は、本実施例で用いた液晶パネルの8階調表示における各階調間の色差を比較したものであり、表1のように電圧を均等にした場合、図11のように輝度が均等となるように電圧設定した場合、表2のように色差が均等となるように電圧設定した場合を示している。

30

## 【0058】

8レベル液晶印加電圧13を表2の設定にした場合に本実施例で用いた液晶パネルで得られる8階調の表示輝度は図14のようになるため、8階調表示輝度特性は図15のようになる。したがって、本実施例で用いた液晶パネルならば、色差を測定しなくても、図15に示すような8階調表示輝度特性となるように8レベル液晶印加電圧を設定することにより、人間の目に階調間の差が均等に見える8階調表示を実現できる。また、液晶材料や、カラーフィルタといった液晶パネルの特性が変わった場合でも、各階調間の色差を均等となるように8レベル液晶印加電圧13を設定することにより、液晶パネルの特性にかか

40

## 【実施例2】

## 【0059】

また、FRC（フレームレートコントロール）方式で、階調数を8階調から16階調に増やした場合の実施例を図16、17及び表3、4を用いて説明する。

## 【0060】

FRCとは、ある画素について2つの階調表示をフレーム（一画面走査期間）毎に交互に切り替えることにより両階調の中間の階調を得る方式である。

## 【0061】

図16は本実施例を適用した液晶多階調表示装置の一実施例のブロック図である。95

50

は R e d 入力表示データ、96 は G r e e n 入力表示データ、97 は B l u e 入力表示データ、4 はクロックであり、本実施例では、入力表示データ1~3はクロック4に同期して送られてくる4ビットデータとする。98は階調コントロール用液晶駆動信号生成部、8は液晶表示データ、9はデータクロック、10は液晶水平クロック、11は液晶先頭信号であり、階調コントロール用液晶駆動信号生成部95は4ビットの入力表示データ95~97を、3ビットの液晶表示データに変換し、従来と同様に、データクロック9、液晶水平クロック10、液晶先頭信号11を生成する。8レベル液晶印加電圧生成部12はFRC方式用の8レベル液晶印加電圧13を生成する。4ビット入力表示データ92~94を3ビット液晶表示データ8へ変換する方法と8レベル液晶印加電圧の設定方法の詳細は後で述べる。8レベルデータドライバ14、走査ドライバ16、液晶パネル20は8階調表示と同様である。

10

**【0062】**

図17は本実施例による16階調表示の表示輝度特性を表す図である。

**【0063】**

本実施例の動作の詳細を説明するために、再び図16、17を用いる。

**【0064】**

図16において、液晶駆動信号生成部7は、4ビットシリアルなR e d 入力表示データ92、G r e e n 入力表示データ93、B l u e 入力表示データ94、クロック4から、液晶表示用のデータクロック9に同期した3ビットの液晶表示データ8を生成する。4ビットから3ビットへの変換の一実施例を表3に示す。

20

**【0065】**

【表 3】

表 3

階調	4ビットデータ	3ビットデータ	電圧値 [V]	色差
1	0000	000	6.50	
2	0001	000 - 001	6.50 - 4.57	4.695
3	0010	001	4.57	5.751
4	0011	001 - 010	4.57 - 4.02	6.242
5	0100	010	4.02	6.943
6	0101	010 - 011	4.02 - 3.72	6.212
7	0110	011	3.72	6.714
8	0111	011 - 100	3.72 - 3.37	7.240
9	1000	100	3.37	7.435
10	1001	100 - 101	3.37 - 3.12	8.192
11	1010	101	3.12	8.059
12	1011	101 - 110	3.12 - 2.77	7.573
13	1100	110	2.77	7.585
14	1101	101 - 111	3.12 - 1.77	5.689
15	1110	110 - 111	2.77 - 1.77	7.072
16	1111	111	1.77	10.707

## 【 0 0 6 6 】

2種類の3ビットデータが示されている階調がFRC方式を行っている階調であり、階調コントロール用液晶表示データ生成部95は、この2種類のデータをフレーム毎に切り替える。

## 【 0 0 6 7 】

また、8階調表示の場合と同様に、水平クロック5、先頭信号6から、液晶駆動用信号であるデータクロック9、液晶水平クロック10、液晶先頭信号11を生成する。

## 【 0 0 6 8 】

8レベル液晶印加電圧生成部12は、電圧の差が任意に設定された8レベルの液晶印加電圧13を生成する。電圧の設定は、8階調表示の場合と同様の輝度特性を示すように設定する。その場合の電圧値と各階調間の色差は表3に示す。表3に示すとおり、色差は平均7.1に対し、±約50%の誤差があり、FRC方式を用いているため調整に限界があるが、目視評価で問題はないレベルである。図17の16階調表示輝度特性は、同じ特性の液晶パネルを用いた場合、8階調の表示輝度特性と同様の特性を示す。

## 【 0 0 6 9 】

なお、本実施例における色差の誤差が大きいのは、FRC方式では、FRCによらない階調（例えば階調3）の電圧値を変化させると、その隣りのFRC階調（階調2と4）の

10

20

30

40

50

電圧値も変化するので、色差の均等化が困難だからである。

【0070】

8レベルデータドライバ14は従来と同様に、液晶表示データ8、データクロック9、液晶水平データ10、8レベル均等液晶印加電圧13から、液晶水平データ15を生成する。走査ドライバ16は、液晶先頭信号9の1'を液晶水平クロック10で取り込み、一ライン目走査線17に選択電圧を出力し、その後液晶水平クロック10で二ライン目走査線18、... nライン目走査線19と順次シフトし、一画面の走査を行う。液晶パネル20の走査ドライバ16から選択電圧が出力されたライン上に、8レベルデータドライバ14から出力される液晶水平データ15が表示される。

【0071】

また、図16において、8レベル液晶印加電圧生成部をRed、Green、Blueそれぞれ独立に設け、階調コントロール用液晶駆動信号生成部98も、4ビットから3ビットへのデータ変換をRed、Green、Blueそれぞれ独立に行うことにより、各色で、人間の目に均等に見える16階調を得ることができる。

【0072】

表4は、図17のような輝度特性を持つ16階調表示を得るための電圧設定とFRC方式の組合せの別の実施例である。組合せを変えても、各階調間の色差が均等であれば、人間の目に階調間の差が均等に見える16階調表示を得ることができる。また、本実施例で用いた液晶パネルならば、色差を測定しなくても、図17に示すような16階調表示輝度特性に合わせることによって、人間の目に階調間の差が均等に見える16階調表示を得ることができる。

【0073】

10

20

【表 4】

表 4

階調	電圧値 [V]
1	7.00
2	7.00 - 4.60
3	7.00 - 4.00
4	4.60
5	4.60 - 4.00
6	4.00
7	4.00 - 3.62
8	3.62
9	3.62 - 3.21
10	3.21
11	2.99
12	2.99 - 2.59
13	2.59
14	3.21 - 0.01
15	2.99 - 0.01
16	0.01

10

20

30

## 【0074】

更に、階調数が増えた場合でも、各階調間の色差が均等であれば、人間の目に階調間の差が均等に見える多階調表示を得ることができ、本実施例で用いた液晶パネルならば、図17のような曲線に表示輝度特性を合わせることにより、人間の目に階調間の差が均等に見える階調表示を得ることができる。また、液晶材料や、カラーフィルタといった液晶パネルの特性が変わった場合でも、各階調間の色差を均等にするにより、液晶パネルの特性にかかわらず、人間の目に階調間の差が均等に見える階調表示を得ることができる。

40

## 【図面の簡単な説明】

## 【0075】

【図1】本発明を用いた8階調表示装置の一実施例のブロック図である。

【図2】従来の8階調表示装置のブロック図である。

【図3】図2に示す液晶駆動信号生成部の動作タイミング図である。

【図4】図2に示す液晶パネルの画素構成図である。

【図5】図2に示す8レベル均等液晶印加電圧生成部の内部構成図である。

【図6】図2に示す8レベルデータドライバのブロック図である。

50

【図7】図6に示す8レベル電圧選択部の内部構成図である。

【図8】液晶印加電圧と表示輝度関係の一例を示す図である。

【図9】図1に示す8レベル液晶印加電圧生成部の内部構成図である。

【図10】8レベル液晶印加電圧の設定の一例を示す図である。

【図11】図10の電圧設定で得られる8階調表示輝度の特性を示す図である。

【図12】CIE LUV均等色空間内の白表示と黒表示の座標を示す図である。

【図13】表1、図10、表2に示す電圧設定で得られる8階調の各階調間の色差を表す図である。

【図14】色差が均等になるように電圧を設定した場合の表示輝度を示す図である。

【図15】図13の電圧設定で得られる8階調表示輝度の特性を示す図である。

10

【図16】本発明を用いた16階調表示装置の一実施例のブロック図である。

【図17】本発明による16階調表示の表示輝度特性を示す図である。

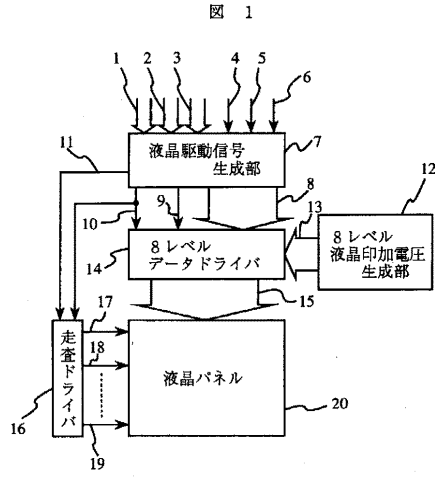
【符号の説明】

【0076】

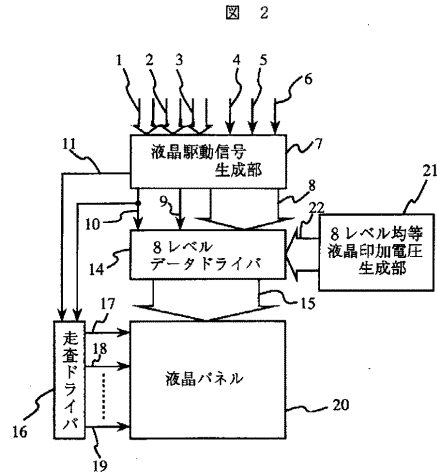
1...3ビットRed入力表示データ、2...3ビットGreen入力表示データ、3...3ビットBlue入力表示データ、4...クロック、5...水平クロック、6...先頭信号、7...液晶駆動信号生成部、8...液晶表示データ、9...データクロック、10...液晶水平クロック、11...液晶先頭信号、12...8レベル液晶印加電圧生成部、13...8レベル液晶印加電圧、14...8レベルデータドライバ、15...液晶水平データ、16...走査ドライバ、17...1ライン目走査線、18...2ライン目走査線、19...nライン目走査線、20...液晶パネル、21...8レベル均等液晶印加電圧生成部、22...8レベル均等液晶印加電圧、23...Red画素、24...Green画素、25...Blue画素、27...液晶駆動電源、45...データシフト部、46...シフトデータ、47...1ラインラッチ手段、48...表示データ、49...8レベル電圧選択部、50...3 to 8デコーダ、67...液晶水平データ線、95...4ビットRed入力表示データ、96...4ビットGreen入力表示データ、97...4ビットBlue入力表示データ、98...階調コントロール用液晶駆動信号生成部。

20

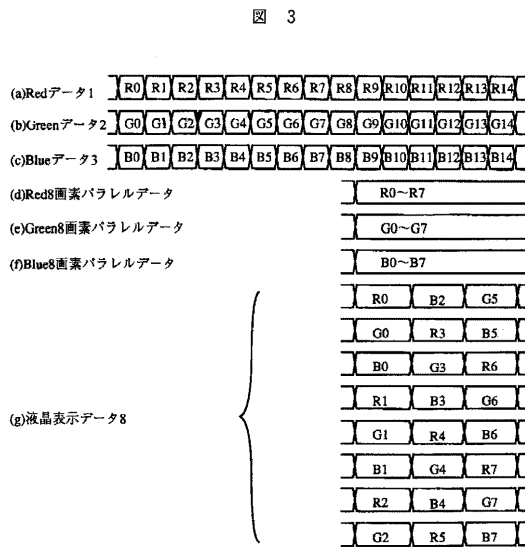
【 図 1 】



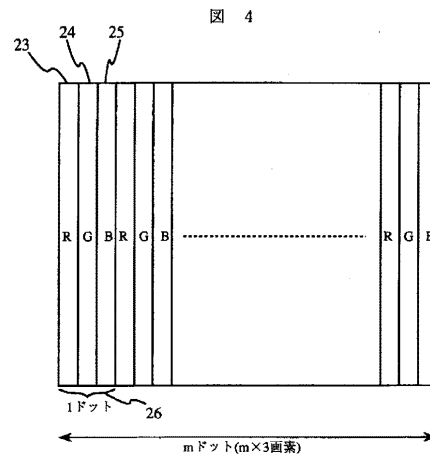
【 図 2 】



【 図 3 】

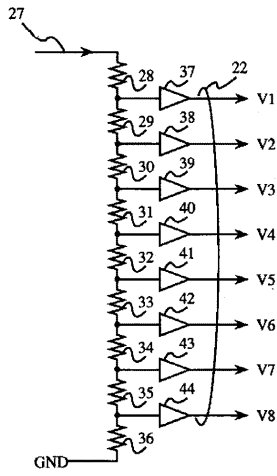


【 図 4 】



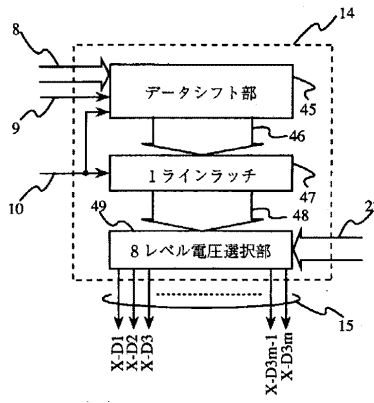
【 図 5 】

図 5



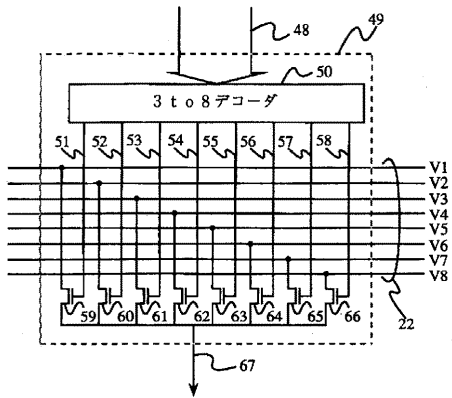
【 図 6 】

図 6



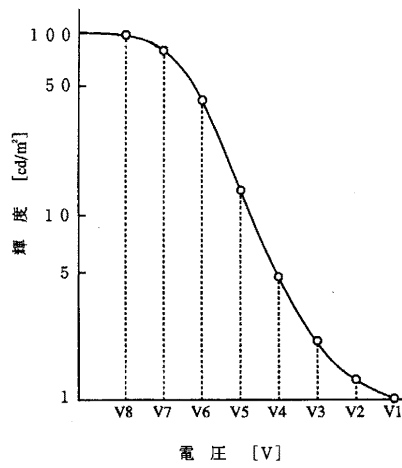
【 図 7 】

図 7



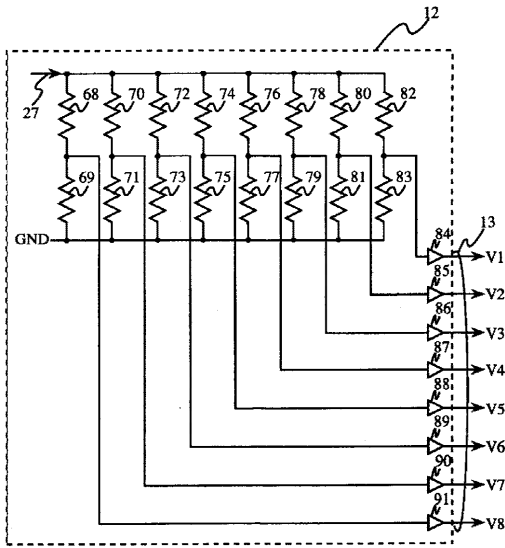
【 図 8 】

図 8



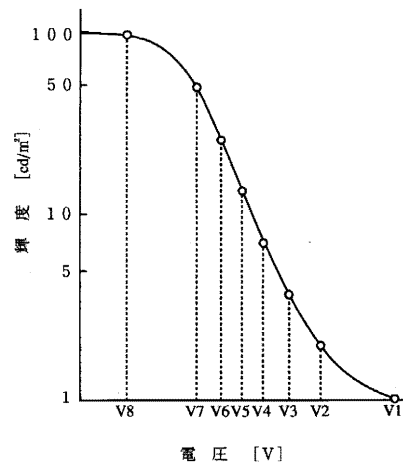
【 図 9 】

図 9



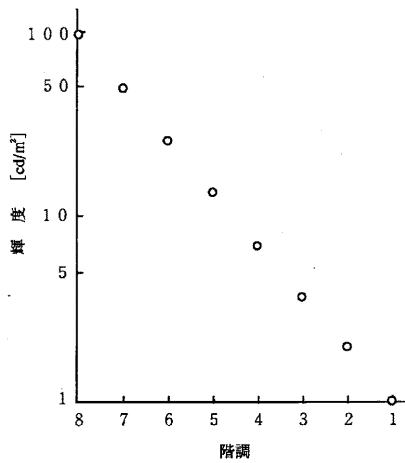
【 図 10 】

図 10



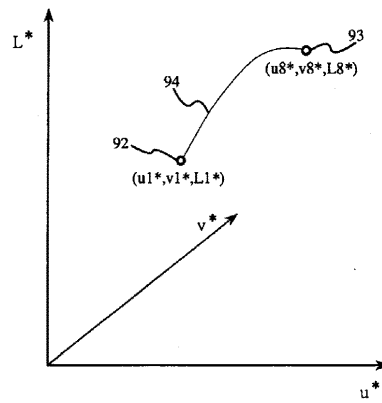
【 図 11 】

図 11



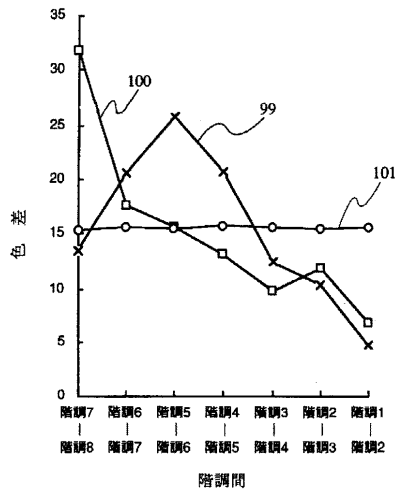
【 図 12 】

図 12



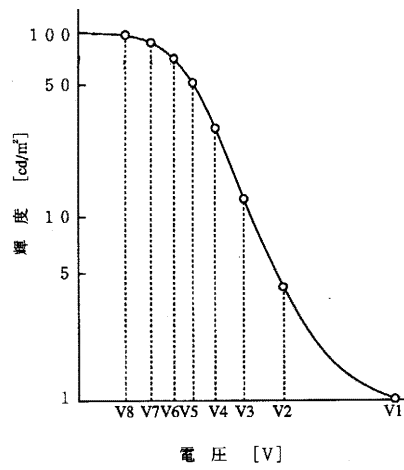
【 図 1 3 】

図 13



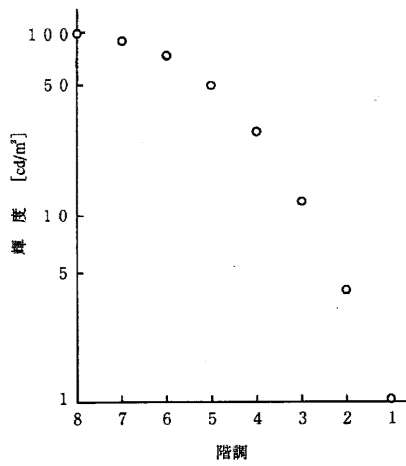
【 図 1 4 】

図 14



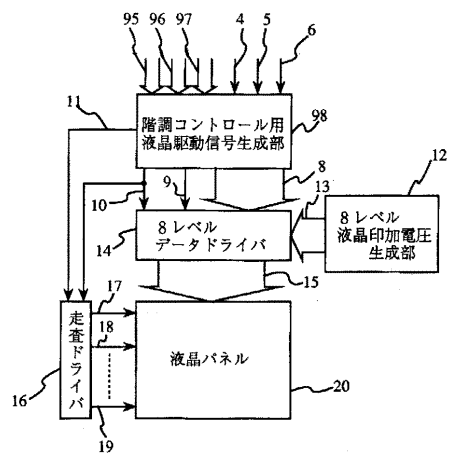
【 図 1 5 】

図 15



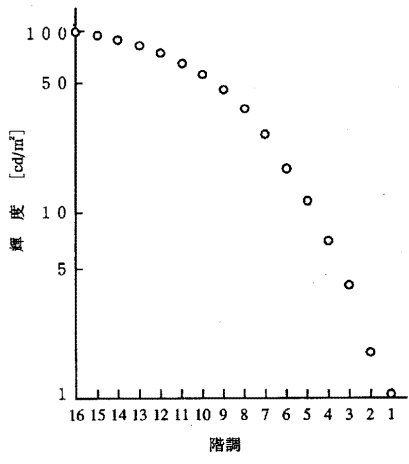
【 図 1 6 】

図 16



【 図 17 】

図 17



---

フロントページの続き

- (72)発明者 西谷 茂之  
神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地 株式会社日立製作所 マイクロエレクトロニクス機器開発研究所内
- (72)発明者 滝田 功  
神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地 株式会社日立製作所 マイクロエレクトロニクス機器開発研究所内
- (72)発明者 高橋 孝次  
千葉県茂原市早野3300番地 株式会社日立製作所 電子デバイス事業部内

審査官 西島 篤宏

- (56)参考文献 特開昭63-271497(JP,A)  
特開昭63-071889(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G09G 3/00 - 3/38

G02F 1/133 505 - 580

专利名称(译)	多阶调表示装置		
公开(公告)号	<a href="#">JP3941832B2</a>	公开(公告)日	2007-07-04
申请号	JP2006196418	申请日	2006-07-19
[标]申请(专利权)人(译)	株式会社日立制作所		
申请(专利权)人(译)	株式会社日立制作所		
当前申请(专利权)人(译)	株式会社日立制作所		
[标]发明人	笠井成彦 真野宏之 西谷茂之 滝田功 高橋孝次		
发明人	笠井 成彦 真野 宏之 西谷 茂之 滝田 功 高橋 孝次		
IPC分类号	G09G3/36 G09G3/20 G02F1/133 H04N5/66		
CPC分类号	G09G3/2011 G09G3/2025 G09G3/3648 G09G3/3688 G09G3/3696 G09G2310/027 G09G2320/0242 G09G2320/0271 G09G2320/0276		
FI分类号	G09G3/36 G09G3/20.612.F G09G3/20.623.F G02F1/133.550		
F-TERM分类号	2H093/NA16 2H093/NA53 2H093/NA59 2H093/NC03 2H093/NC10 2H093/NC12 2H093/NC14 2H093/NC26 2H093/NC65 2H093/ND06 2H093/ND17 2H093/ND24 2H093/ND58 2H093/NH18 2H193/ZD23 2H193/ZD30 2H193/ZF03 2H193/ZF22 2H193/ZF36 2H193/ZH40 5C006/AA22 5C006/AF46 5C006/AF83 5C006/BB16 5C006/BC12 5C006/BF43 5C006/FA56 5C080/AA10 5C080/BB05 5C080/CC03 5C080/DD01 5C080/EE29 5C080/EE30 5C080/FF03 5C080/FF11 5C080/JJ02 5C080/JJ03 5C080/JJ04 5C080/JJ05		
代理人(译)	井上 学		
优先权	1992039203 1992-02-26 JP		
其他公开文献	JP2006293403A		
外部链接	<a href="#">Espacenet</a>		

#### 摘要(译)

亲切代码：本发明提供一种多层次显示装置，其中考虑到灰度显示的光学特性，灰度平衡对人眼来说是均匀的。— 1.一种点阵显示装置，包括：布置在矩阵上的像素部分；具有灰度显示信息的显示数据；以及用于将显示数据转换为要施加到像素部分的电压的数据转换部分，液晶显示数据8，用于根据液晶显示数据8从8级电压选择性地输出1级的8级数据驱动器，以及用于逐渐选择和输出相邻级的色级的8级数据驱动器八级液晶施加电压发生装置12，用于产生要施加的8级液晶施加电压13。点域1

階調	電圧値 [V]
1	6.50
2	5.80
3	5.10
4	4.40
5	3.70
6	3.00
7	2.30
8	1.60